



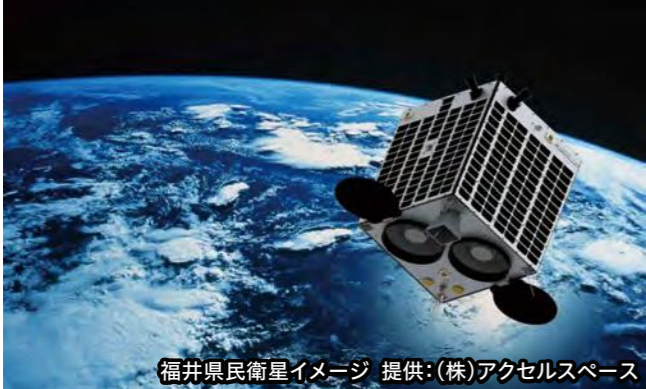
月面を走行するロボット



子どもたちの質問に答える宇宙飛行士の古川聡さん



小惑星探査機「はやぶさ2」模型



福井県民衛星イメージ 提供:(株)アクセルスペース



アメリカの宇宙関連施設を見学した子どもたちが成果を発表

繊維や眼鏡など福井県の地場産業を支えている高度なものづくりの技術。県は、その技術を生かした新しい産業を創出するため、国が成長産業に位置付ける宇宙産業に着目。県民衛星プロジェクトや次世代の人材育成に取り組んでいます。

飛び出せ！福井発の県民衛星

県内企業の技術を結集した超小型人工衛星の打ち上げを目指す「県民衛星プロジェクト」。県は県内外の民間企業11社と2016年に組合を設立し、県工業技術センターを拠点に県民衛星の製造・試験を進めています。センターには、打ち上げ時の振動や過酷な宇宙環境に耐えられるか試験する機器など設備が充実。福井県はいまや筑波、北九州とともに超小型人工衛星開発の日本3大拠点になっています。

プロジェクトを通して、県内企業が衛星の製造ノウハウや技術力を習得し、国内外から製造を受注するなど、新しいビジネスの創出が期待されます。

県民衛星は、2020年度上半期に、

ロシアのソユーズロケットに乗せてバイコヌール宇宙基地(カザフスタン共和国)から打ち上げられることが決定。製造・試験を進め、来年3月までの完成を予定しています。

県民衛星は1m以下と超小型ながら、精度の高い画像を撮ることができ、組み合わせでは、衛星が撮影した画像を活用するソフトウェアを開発中。画像を地図に重ねたり、立体的に表示するシステムを製作し、防災や農林、土木、環境保全などの分野に役立てていきます。

宇宙と科学の国際シンポジウムを開催

県民衛星の打ち上げに向けた機運を盛り上げ、子どもたちの宇宙科学への好奇心

を育むため、県は福井市とともに、宇宙分野における国内最大規模の学会「宇宙技術および科学の国際シンポジウム(ISTS)」を誘致。6月15日〜21日の7日間、アオッサやハピリンで研究発表や展示会などが行われました。

△世界の宇宙研究が福井に集結△

ISTSには、国内外から1000人を超える研究者が集結。県内企業も開発に携わった、水蒸気を噴出して進む世界初の超小型人工衛星など、最新の研究について発表が行われました。また、県からは県民衛星プロジェクトについて報告するなど、宇宙産業における本県の取り組みを世界に発信しました。

△宇宙科学に触れる△

ISTSに合わせ、県では15、16日に県民の皆さんが宇宙や科学を体験するイベント「宇宙フェスinふくい」を開催。延べ3200人が宇宙への関心を深めました。

宇宙飛行士の古川聡さんが国際宇宙ステーションでの体験について語る講演会や、JAXA(宇宙航空研究開発機構)の職員が小惑星探査機「はやぶさ2」の活躍を紹介するトークショーを実施。県内外

の企業や団体が最先端の技術や製品を紹介する展示会も開催しました。JAXAブースでは月面を走行するロボットや「はやぶさ2」の模型などを展示。多くの家族連れでにぎわいました。

△未来にはばたく人材を育てる△

将来、宇宙分野で活躍する人材を育成するため、県では今年3月、県内の小中学生を国内外の宇宙関連施設に派遣。中学生10名がNASA(アメリカ航空宇宙局)などを見学したほか、小中学生39名が日本科学未来館(東京都)、JAXA筑波宇宙センター(茨城県)を訪れました。

最先端の宇宙科学に触れた子どもたちは、「宇宙フェスinふくい」でその成果を発表。人工衛星の開発に携わりたいなど将来の夢を話しました。

県では今後も関係機関と連携しながら宇宙ビジネスの拡大や人材育成を進め、宇宙産業の国内拠点としてさらなる発展を目指していきます。

◎新産業創出課
☎0776・20・0538 FAX20・0678
詳しくは 福井県民衛星 検索